

リスク管理

欧州をはじめとして、近年日本でも「サステイナブルシティー（持続可能なまち）」という概念が広まっている。ここでは「まちづくり」全般の観点から、持続可能なまちとは何か、それを実現するにはどうすればよいか、について議論したい。



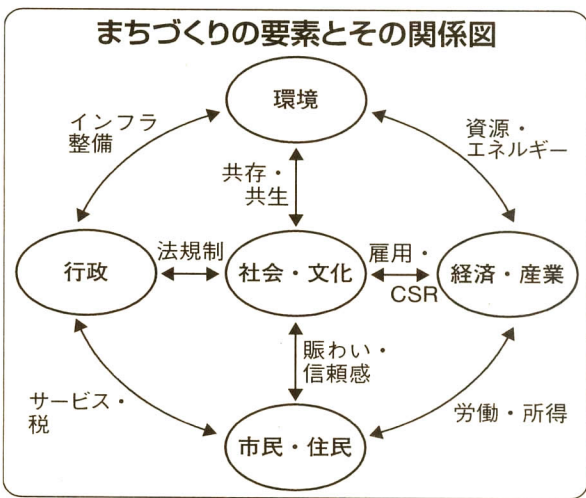
これまで、持続可能なまちづくりという点、環境分野に限定した取り組みの推進が目されてきた。例えば、省エネ行動の推進、自然エネルギーの利用、ごみの削減等である。無論こうした取り組みは非常に重要であるが、この分野のみに注力すれば持続可能性が保たれるわけではない。この点に持続可能なまちづくりに係るリスクが潜んでいるといえる。

一般にまちを形作る際

リスクマネジメント

ABC

持続可能なまちづくり



まちづくりの要素とその関係図

には、様々なセクターが存在する。例えば経済活動にかかわる「経済・産業」分野、人の生活舞台としての「環境」分野、ガバナンス機能をもつ「行政」分野、人と人のつながりやそれにより生まれる文化活動を含む「社会・文化」分野、すべての行政の主体である「市民・住民」分野である。

「Our Future」において「持続可能な発展」を「将来世代のニーズを損なうことなく現在の世代のニーズを満たす開発」と定義して

「風が吹けば桶屋が儲かる」といった具合に、どこかの要素のアウトプット（取り組み結果）がまた別の要素のインプットとなるものである。このシステムを念頭においておかないと、単に環境保全に向けた直接的な施策推進のみに注力がなされ、まちの活力や人の賑わい、経済・文化活動などの面での持続可能性は担保されないリスクがある。

国連のブルントラント委員会では、87年に発表した『地球の未来を守るために（Our Common Future）』において「持続可能な発展」を「将来世代のニーズを損なうことなく現在の世代のニーズを満たす開発」と定義して

「社会・文化」軸に相乗効果

「環境」分野での公害問題、「人と社会」とのつながりが弱まった高度経済成長期の二の舞となっ

（日本総合研究所）

総合研究部門

青山 彦